



Title	読者の声
Author(s)	松田, 富美; 北村, 克子; 田中, 忠弥
Citation	大阪公衆衛生. 1965, 16, p. 27-27
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/84469
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka



松田 富美

№.14の特集欄に興味深く読ませていただきました。日常われわれが痛感していることばかりです。公衆衛生従事者のどの職種においても、量質ともに低下してよいというものはありませんが、公衆衛生事業の第一線である保健所の勤務医師の減少は、直に公衆衛生活動の停滞を意味すると思います。今までのように、ただ地区民の希望するがままに形だけの乳児検診、法を無視せざるを得ないような予防接種に追いまわされて、研究どころか考える余裕もないような組織の一単位としての医師のあり方、保健所勤務医師本来の仕事が何であるかさえあいまいになりつつある現在の行政組織のあり方に、深い疑問を抱かざるを得ません。しかしこのような状態に至らしめたについては、われわれにも責任の一端があると深く反省しております。われわれも公衆衛生活動が円滑に効率よく行なわれるよう努力は致しますが、各界の広い視野からも批判検討してご助力賜りたく思います。

(大阪市西保健所)

北村 克子

毎号さっぱりした「大阪公衆衛生」をお届け下さいます。ありがとうございます。広く公衆衛生関係者に親しまれ、知識、視野の拡張に寄与するところ大だと思います。また本来の硬いばかりの学術雑誌でなく、気楽な気持ちでひもとけるのも誠にありがたいと思います。しかし、私たち保健婦仲間に案外会員の少いことを知りました。女性は活字に弱いとか、はなはだありがたい名を頂戴しておりますが、日頃の仕事の多忙さに甘んじ、

自からの浅学をかえりみずただ、あくせくしているにすぎません。そして今の今必要とする目の前に追いつかれて、読書も保健指導用のテキストは読んで、教養読本は二次、三次においやられてしまいます。視野の狭いことを暴露するようですが、今日の仕事にぜひ知らねばならぬ手近な内容にさせていただきたいと思いません。狭義の公衆衛生が主体となり、結核、母性など日常業務に一寸具体性が少いように思います。われわれ保健婦の中にも広く浸透すべき会であり、会誌であってほしいと思います。

(大阪府布施保健所)

田中 忠弥

第7回公衆衛生大会が盛会のうちに終わりましたが、その大会で、大衆の「声なき声を聞け」と宣言されました。大衆のNeedsを公衆衛生に反映させることと解釈されますが、公衆衛生を進めてゆく上でもっとも緊急なことで、今さらながらの感じがしますが、これを叫ばなければならぬほど公衆衛生が壁につき当たっているのではないのでしょうか。Needsとは何か、「困窮」「要求」でしょう。自転車で征服された都市における交通事故、重化学工業の成長による公害の問題等々、困窮度はそうとう高いといわねばなりません。この秋協会の使命は大であります。Volunteer精神を基盤としてCampaignに立ちあがる秋でないのでしょうか。またSocial Actionをもっと強力にやる必要があると思われまます。

機関誌もCampaignを主眼として大衆に訴える特別号をどしどし発行されることが望ましいと思います。それがために協会の財政的基礎を固める必要があり、会員の獲得に努力することが必要なのではないのでしょうか。協会の発展を祈り健康大阪の地の塩として努力されますよう希望してやみません。

(大阪府高槻保健所長)